

新潟県

公民館月報

昭和60年9月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川原町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】〔振替新潟0-4049〕

発行人 会長代行 佐藤 眞 武

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 120円 年共 年額 1,440円】



お堀りの蓮

高田城跡の内部を
「エ」の字型に囲む
外堀を埋めつくす蓮
は、大部分が赤蓮で
ところどころに白蓮
を交えている。

毎年七月と八月下
旬にかけて無数に咲
きほこるこのみごと蓮の
花は、その美しさを長い年
月人々の心深くに忘れ得ぬ
楽しみとして宿している。

かつて、「その規模の広
大なこと 東洋一」と、蓮
の研究で知られている故大
賀一郎博士が折り紙をつけ
られたこの蓮も高田市史に
よると、慶應によって俵禄
を失った藩士の授産の一助
として、明治三〜四年ごろ
植栽されたとのこと。昭和
三十年代、晩秋に小舟を堀
に浮かべ蓮根を採集する人の
姿もみられるなど、高田の
風物詩でもあった。

数年前、ほとんど全滅し
かけたこともあったが、今
ではすっかりよみがえり、
花期にはお堀りに全長約百
米の蓮の観賞浅桶がかけら
れ、最盛期には一日に二万
人も訪れるなど、その美し
さを慕って集う人々で賑わ
う。

文・上越市社会教育指導員

五十嵐礼子

絵・上越市公民館すみえ教
室 高山 やき

新発田市で第36回県公民館大会



↑ (BSN池葉アナウンサーの司会でパネルディスカッション)

↓ (新発田市文化会館・公民館の大ホールを埋めた県公民館大会の参加者)



基幹施設の役割を追究

生涯教育時代に即応するために

第三十六回県公民館大会は七月二十六日、新発田市文化会館公民館で約七百名の参加者を集めて開催された。生涯教育推進の基幹的役割を果す公民館活動のあり方をテーマとし、まず全連第五次専門委員会委員長田代元弥氏(大東文化大学教授)による「生涯教育時代に即応した公民館のあり方」と今後の課題と題した基調講演を聞き、午後は講師六名によるパネルディスカッションとすすみ、即日盛会のうちに幕を閉じた。

上越公連会長長野正夫の大会開
 催宣言、「公民館の歌」の斉唱に
 よって大会の幕はあげられた。
 県公連会長代行佐藤貞武氏と
 県教育長有藤邦男氏(代理)によ
 る主催者あいさつ。続いて表彰
 式、まず優良公民館として新潟市
 中地区公民館、同坂井輪地区公民
 館、同石山地区公民館、青海町名
 引公民館、柏崎市福川公民館が表
 彰された。続いて公民館運営審議
 会委員、非常勤公民館職員二十二
 名に対し佐藤会長職務代理者から
 表彰状と記念品が贈られた。被表
 彰者代表として新潟市の築川平二
 氏が謝辞を述べ、新発田市議会議
 長井岡博男氏(代理)の祝辞・地
 元新発田市長近藤彦彦氏による歓迎
 のことばが続いた。
 このあと十一時より一時間半に
 わたり「生涯教育時代に即応した
 公民館のあり方」と今後の課題
 と題した第五次専門委員会委員長
 田代元弥氏(大東文化大学教授)の
 基調講演を聞く。田代氏は、第
 五次専門委員会の作業経過、日本
 の大学教育の現状、随筆の筆中
 内容にも触れながら、答申に寄る
 までの苦心談と今後の課題を熱心
 に語った。
 昼食後一時半からパネル対談
 パネリストは地元主婦の山原智恵
 子さん、新潟市木戸地区コミニ
 ティセンター運営委員会長の堀井
 末次氏、NHK文化センター新潟
 放送所長の本間金三氏、県発財公
 営課所長の高井敏平氏、新
 発田市公民館長細野一二氏の閉会
 宣言で幕とまった。基調講演内容
 およびパネル対談内容のあらまし
 は順を追って紹介する。

あり方」についての問題提起。そ
 れに対する参加者からの質疑応答
 とすすみ、以後に司会者のBSN
 アナウンサー池葉宏氏が、それぞ
 れの基調講演の要旨を手ききまよ
 くまとり「よりよく生きるため
 に、それだけが継続し続ける時代
 であり、そこに公民館の存在意
 義ももっと追究されなければなら
 ないでしょう。」と締めくく
 った。
 閉会式は地元新発田市教育長本
 間一二夫氏のあいさつ、次期会場
 地代表として中越公連会長田中脚
 氏「来年また柏崎市でお会いし
 ましょう」とあいさつ、最後に新
 発田市公民館長細野一二氏の閉会
 宣言で幕とまった。基調講演内容
 およびパネル対談内容のあらまし
 は順を追って紹介する。

県大会表彰に輝く 優良公民館五館

新潟市中央区公民館五館 主事一、非常勤嘱託(予算運営建(併設館) (館長一、事業係主事一、同主事一、非常勤嘱託。予算運営費二千九百九十二万六千円、事業費百五十九万九千円(人口比一人当り二七五円))

新潟市坂井輪地区公民館 主事一、非常勤嘱託(予算運営費二千六百二十七万七千円、事業費八万四千七百七十円(人口比一人当り二〇〇円))

新潟市石山地区公民館五館(併設館) (館長一、主事一、非常勤嘱託(予算運営費二千六百二十七万七千円、事業費八万四千七百七十円(人口比一人当り二〇〇円))

新潟市鶴川公民館(館長一、主事一、非常勤嘱託(予算運営費四百四十九万九千円、事業費四十八万五千円(人口比一人当り三三九円九角))

柏崎市鶴川公民館(館長一、主事一、非常勤嘱託(予算運営費四百四十九万九千円、事業費四十八万五千円(人口比一人当り三三九円九角))

永年勤続公民館運営審議会委員 非常勤公民館職員 二十二名

氏名	年令	所属公民館	氏名	年令	所属公民館
清塚 利夫	51	広神村公民館	福原 夏子	73	煙野町松ヶ崎公民館
杉山 泰三	75	巻町公民館	武石 力	46	寺泊町公民館
金子欣一郎	49	小千谷市公民館	高橋 弘	46	煙野町松ヶ崎公民館
関根甚一郎	71	栃尾市公民館下塩谷分館	齊藤 安夫	48	煙野町松ヶ崎公民館
塚本 三栄	74	頸城村公民館	深海 静江	62	煙野町松ヶ崎公民館
松沢 キヨ	76	小須戸町中央公民館	清水 勇雄	68	煙野町松ヶ崎公民館
中野 武	67	〃	水戸公四郎	58	煙野町松ヶ崎公民館
古田 恒夫	47	〃	栗川 平二	84	新潟市坂井輪地区公民館
八木 定吉	75	青海町田海地区公民館	村山 審	65	新潟市北区公民館
深沢 謙次	71	白根市茨曾根地区公民館	阿久津琢了	74	三条市井栗公民館
中野 雄蔵	46	白根市白根地区公民館	高橋 啓作	71	両津市公民館



これからの公民館

月岡 英人

本年三月、新潟県生涯教育推進会議から「新潟県生涯教育推進基本構想」が報告された。この中で生涯学習時代における公民館の姿の一端が明らかになってきた。この構想は、国民の生涯学習の場として学習の場をもち、市民が第一歩の公民館に当たっては、市民と協働して、必要とする学習活動を推進する。また、同構想は、この取組みは公民館の役割として、住民が中心となり、市民と協働して、必要とする学習活動を推進する。また、同構想は、この取組みは公民館の役割として、住民が中心となり、市民と協働して、必要とする学習活動を推進する。

意欲が高いが実際の学習率は低いという現状を明らかにし、この理由としての学習機会が必ずしも国民の学習要求と合致してゐないこと、③学習情報が不足していること、④学習施設が不足していること、⑤学習施設の整備が不十分であることなどを挙げ、今後本県においても生涯教育の観点から、立った取組みが必要であると述べている。

このように中核として同構想は公民館の役割として、住民が中心となり、市民と協働して、必要とする学習活動を推進する。また、同構想は、この取組みは公民館の役割として、住民が中心となり、市民と協働して、必要とする学習活動を推進する。

資料歓迎

公民館で作成した資料や、文芸作品集または録音テープなどを感さるごさいませんが、県内の皆さんへ紹介してまいりたいと思ひます。

投稿歓迎

原稿文も掲載、折にふれて気晴しペンを走らせてください。採用された原稿品を差し上げます。

まずよい実績を 着実にかさねる

七月十日から十五日までの、第四十回新潟県美術展覧会とは、ラッパを吹くことがPRで、柏崎展が私たちの中央公民館と、だれも知らない。この隣接の勤労青少年ホームを会場に開かれ、約二万人の市民が観覧し、成功裡に幕を閉じた。柏崎展の開催は実に五年ぶり、かねてから美術関係者をはじめ市民から強い要望のあったものであった。

公民館番頭日記

私たちの公民館では、この展覧会を迎えるにあたり「県展をめざす人」のための美術講座」を実施したが、前年に比較して応募出品者数は三倍余、入選者数は二倍余となり、さびにうれしことには、この美術講座の受講生の中から第四十回展覧会記念特別賞の受賞者まで生まれた。

先程、この実行委員会の反省懇話会が会費持ちで開かれ、参加された二十名のひとりひとりが、そのおなじみの人の音頭で乾杯をしたが、よけいな仕事の後、みんなが飲み酒の味は格別のものであった。私はこの一分間スピーチで、かつて全公連の楠上亮一先生が教えた「PRとは、よくことをやること」が九十%、これにひいて語るの10%より



灯台

国民の生涯学習の場として学習の場をもち、市民が第一歩の公民館に当たっては、市民と協働して、必要とする学習活動を推進する。また、同構想は、この取組みは公民館の役割として、住民が中心となり、市民と協働して、必要とする学習活動を推進する。

日頃、「公民館はPR不足だ。PRが下手クソだ」とよく言われるが、大切なことは市民が求めてゐるものを正しく知り、その市民の要求をさらに高め、市民の力を合わせながら、その実現のための努力を精進にかさねてゆくことではないだろうかと思うのである。

(柏崎市中央公民館 参事兼事務長 徳間助夫)

「した公民館のあり方」と今後の課題

大東文化大学教授 田代元弼

ってしまおうというわけです。

こうして出来た施設も、他の方が幅をきかせる公民館はワリを食うという現象も生まれてきます。福祉センターとか、児童文化センターとか、青少年むけの施設などには国や県でもどどん金を出すので、その方がつくりやすい。同じような施設が同じ町の中にそれぞれに割り行政の結果としてどどん出てくる。それが、横の連係もなく運営されている。こうなると公民館が一ばんはじめに出来たのだといばってばかりもいられない。このようなとき公民館にとって特に必要なことは何か、もちろんその基盤には生涯教育体制を完成させるという重要な方向づけはありますが、その生涯教育に対する認識も一貫したものがなかった。そんな現状をふまえて、われわれ五名の委員は公民館に直接結びつく問題にしばって作業をすすめたのであります。昭和58年6月の全公連総会に間にあわせるようまず中間発表というかたちで長文の案を発表しました。この案は全国二カ所での公聴会を開き、公民館の当事者の意見もいろいろ頂きました。こうして最終答申の試案を書き、それを各委員が修正を加えて、ほぼ3千字の答申となりました。その間、実際の公民館関係の方々との話し合いでは、まだそのことについて十分な理解が成りたないと思われる点については省きました。それは何かというと職員の問題だと卒直に見ていただいてよいと思います。また運営審議会というものも十分に機能していないような印象を与える表現がありましたが、これは運審そのものに対する把握のしかたやあつかい方としてまずいとして思い切って削除したわけです。(中略)

公民館というものの性格をここで要約して申しますと、第五次専門委員会では「公民館とは徹底的に地域に根をおろした教育施設である。」としました。本来学校でもなんでも地域の特性に応じてつくられ、かつ運営されなければならないわけです。しかし実際は、他の機関でも全国どこへ行っても同じような見本どおりのものしか見られない。これに対し公民館はあくまで地域的な特色をもった教育機関でなければいけないということを強調しました。

学級・講座式の教育プログラムというものも最近都会ではカルチャーセンターといって金をとってやっている。いわゆる教育産業のひとつであります。これもひところはデパートや新聞社などで非常に隆盛でございましたけれども、最近はかげりが出てきたということを知られています。

公民館をとりまく周囲の条件というのは答申では総論に主にこれを書きました。しかし21世紀には日本の社会はどうなるんだらうかという見通しをはっきりしようということになると実は大へん困る。こういう世の中になるなんてことを書くことは大へん無責任であり、これは慎重な姿勢になってしまいました。しかし明瞭じゃないかと思われる点がひとつある。それはどういうことかと申しますと、今日のように科学技術が日進月歩で進んでまいりますと、それを人間がどう使いこなしていくかという人間対機械あるいは技術の問題、それから人間対社会という問題があります。また家族相互の関係さえも気をつけないとまともにかない。人間としての生き方が確立できにくいということは、どうやら避けられない問題である。

また高齢化社会にならざるをえないということからして生活の上でのいろいろの関係がどうなるのかという課題があ

る。また青少年問題も決して小さくはないだろうと思われま

す。要するに集まるだけの施設でよいのかという問題、このころは集まるだけならばコミュニティーセンターなど快適な集い場もできています。それで、その地域の理事者の中で混同されてしまつて、同じようなものらしいからどっか片方つくればいだろうなんてこともある。自治省でも、コミセンを地域づくりや町づくりの拠点にしようということを行っている。わるいことに初期の公民館は、ほかにそういうものがなかったで、コミセンの役割までいっしょにまわされていた。公民館がいっしょにやるのならそれもよろしいと思いますが、公民館本来の公民館でなければならない事業がおろそかになるというのでは困る。これからは、世界がどういうふうになるかとしているのか、またわれわれの生活をどうしていけばいいのかというような問題については、やっぱりしっかりとした勉強の場を必要としている。つまり、公民館はその地域の人が現在および将来の生活にとってどうして使欠かすことのできない知識や技術についての指導をちゃんとお膳立てしてやっていく。新聞とかテレビとか情報はあふれていますけれど、ずいぶん無責任で片寄った情報が毎日のように出ている。そういうものに対して正しいこと必要なことを充分に知りうるようなことをするという事はやはり公民館の機能としてぜひほしい。

20年前に「集まる」「学ぶ」「結ぶ」などということを呪文みたいにしてやってきたけれども、むしろそれに勝るともおとらない状態を公民館が可能にしていく必要があるんじゃないか。それには、もっと公民館同志の結びつきを積極的にやる必要もあり、裏がえしていえばもっと個々の公民館に特色がある必要がある。これを第五次専門委員会ではシステム化という表現であつたっているわけです。

また住民の自治意識がうすれてきたというようなことを聞きますが、それこそ公民館が指導性を発揮して、指導者を求め専門的な研修を重ねていく必要もある。

行政改革の問題が、公民館にもいろいろな意味で入れ込み、人員削減とか統合というようなかたちで表れつつありますが、これは徹底的にわれわれ自身で対処していかなければならない問題であります。しかし、類似施設が派らなく働いているというのでは、それこそ行政改革的にもなりうるわけです。したがって各施設のはたらきを統合しあるいは調整していくという役割を公民館が積極的に果たすというところまで第五次専門委員会は期待しているというふうにご了解を願いたい。

この答申は外部から助っ人のようなものがやったということで、日夜現場でご苦勞されている方々にはピンとこないところもあるとは思いますが、そのことをいままらいてもはじまらないので、あくまでもお互いの刺激の一助としてこれを少しでも生かしていただくことができれば私どもとしては非常に幸いと思ひます。同時にこれからの時代というのはますます流動的な要素が多くなってまいりますので、このとき何が大事かを常に公民館が住民に対しはっきり判るように示していく。またはそれを皆んなで考える場面を充実していくということが大切と思ひます。

「生涯教育時代に即応

全公連第五次専門委員会委員長・

県大会基調講演要旨

全公連第五次専門委員会が全公連に答申した「生涯教育時代に即応した公民館のあり方」について、これをまとめた田代元弥先生から第36回県大会で講演していただいた。以下その要旨を紹介する。

第一に、いわゆる第5次専門委員会の作業経過から、いくつかのことを参考までに申し述べます。第二には答申の内容について申し述べますが、このことはさらに次の二つに分けてお話をいたします。

1. 公民館をめぐる周囲の問題。
2. 公民館自身の問題。

さて、さる6月臨時教育審議会が総理大臣に対する答申を出しました。私は正直いって、あの第一次答申には大へんがっかりいたしました。というのはあの中に公民館という字が入っていないということだけでなく、むしろこれからの日本の教育の必要性、あるいは問題点が浮び上ってこないような印象を受けたからです。

たとえば大学教育の問題でも、入試の改善問題などが答申されておりますけれども、大学の門戸を広くすれば解決する課題かということになると問題があります。私の長年の大学教育にたずさわった経験から申しますと、大学の質は年々低下の一途をたどっており、これは学生の増加倍率と逆比例するように思っています。大学教育に例をとって話をしておりますけれども、別に大学が手を抜いてなまけているというわけではありません。教師は学生のためにずいぶん労力を余計にかけて指導しているつもりですけれども、それ以上に世の中がどんどん進んでいきますので追いつけないところが出てまいります。

教育の問題をこれからの時代にどうするかという議論になると必ずといっていいほど生涯教育ということばがそれにくっついて出てまいります。今後の臨教審の答申でも第二部会のところ、これからは生涯学習とか学習社会を実現しなくちゃいかんとか述べていますけれども、これも大学教育の課題に似ており幅広く金をかければ解決するといえるものでもない。学校教育と社会教育、それに家庭教育がそれぞれ連係を密にして効果を上げるんだというようなことがいわれますが、そのことだけで日本人が必要とする教育を充分に受けられる保証があるかといえば、確実なものとは示めされてはいないのであります。

さてわれわれが第五次専門委員会の仕事をやってくれたいわれたのは、昭和57年2月のことであります。それから2年間、公民館と生涯教育という観点から可能な限り検討を加えてまいりました。

それ以前には第一次専門委員会が出した「公民館のあるべき姿と今日的指標」があり、これは昭和42年に出たもので、すでに20年を経過しようとしています。この答申は、公民館の出発点における考え方や特色をあくまで尊重し守りつづけていこう、すべてはそこから出発しそこから発展していくんだという考え方で一貫しておりました。たいへん名文で書かれていることもあり、いまでも、あちこちでしばしば引用をされています。たとえば、「集まる、学ぶ、結ぶ」というよ

うなことばを使って公民館の性格を端的に多くの人に理解してもらおうとしていたりして、影響の大きなものがありました。

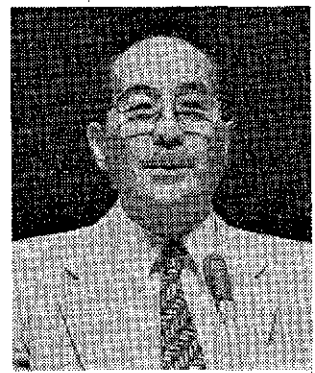
その後、都市化現象や過疎化の問題などが社会問題となるに及び、従来の課題のほかに新しく、この社会の急激な変化に対して公民館はどう対処すべきかという課題が生じてまいりました。そこで第二次の専門委員会が一部メンバーを入れかえて構成されました。これが昭和44年のことであります。これは新しい時代に即応できるような内容とすることに苦心がありました。

当初は、青空公民館と称して公民館は建物はなくとも活動していればよいのだ、敗戦後の日本を建て直す原動力になるのだという気構えではじめられた。したがって公民館は町村民あげて公民館職員になったつもりで、あるいは運営者のつもりで、これととり組んだ、このことはいまでもやはり原点としてふりかえってみななければならないことですが、時代は、除々に変化してきていたわけです。

ところで第二次専門委員会の議論として、二つのことが焦点となりました。そのひとつは、「学習と創造」ということが公民館の一ばんの目玉であり、これを旗印にしていこうということ、一方、この方向を具体化するために社会教育法の改正を求めていこうということでした。この答申は、昭和45年5月の全公連総会で採択してもらいました。しかし全公連が採り入れたからといって文部省や国会が動くかということ、これは全く別で、むしろ文部省などは冷ややかな目で見ていたようであります。

その後、第三次・第四次専門委員会が構成されましたが、これは、都道府県公連の振興策とか、公民館自身の組織上の問題を考えるという方向で内容に変化がありました。この間、社会教育の基本にふれるような、あるいは公民館活動の一番中心になるような事項についての検討は中断していたわけです。

第一次専門委員会が報告を出してから間もなく20年を経過しようとしている。この間に世の中の各方面におおろくべき変化が見られました。大きな歴史上の過程において、教育その他の上でも新しく注意すべきことが出てくるにちがいない、公民館でもその節目を見直すときにきている、という認識が進んできて、第五次専門委員会が構成されました。何回も会議を重ね、議論を交わしてまいりましたが、委員の現状認識に二つの流れがありました。ひとつは、公民館衰退論のようなものでありもうひとつは公民館安泰論のようなものでした。しかし現実には、戦後40年の伝統があるとはいうものの、その間に他のいろいろな類似施設がふえてまいりました。また、この新発田市のように文化会館と公民館を兼ねているというような、いろいろな複合施設が現われてまいりました。これは国の補助措置にも一因があるわけですが、市町村でも、補助金の有利な執行を考えると、どうしてもそんな



講演する田代教授

大会参加の記

第36回県公民館大会に参加された七百名の中から、無作為に二名の方に感想文を依頼したところ、十五名の方から落稿をいただいたので紹介する。

適切だった各講師

劉部真一郎
生涯教育の重要性については、すでに文部省の教育白書で「国民が生進にわたる目的な学習により価値ある生涯を送ることを出来るようにすることが文教の最も重要な目標である」と述べている。また今年の第百一国会における中曽根首相の施政方針演説でも「近年わが国は産業構造の变化、情報化社会の急速な進展などに伴って、生涯を通ずる学習への要請が増大し社会教育の重要な課題となっている」とのべていることをみてもらいます。

今大会はこれを主題に取りあげられたばかりあって、基調講演も第3次専門委員会の答申をまとめた委員長の田代先生であったことは、適切であり、参加者一同大きな喜びであったと願ひます。

またパネル討議も有意義な参考になったことが多くあったが、なかでも石井先生のお話

しは次元が高く感銘を深くしました。多年の実績と経験に基づく発言であるせいかその内容は新鮮で説得力があり傾聴しました。

特に生涯教育時代の公民館は単なる教育施設としてでなく、総合行政の中に組み入れ、村おこし町づくりの推進力にならなければならぬと述べられたが、このことはいずれからの公民館の方向を示すものとして多くの人々の共感があったと思います。

(五泉市川東公民館長)



「公民館・現場からの実践記録」と題した連載特集を組むことになりました。この実践記録は、かつて、実践記録集「集いの学び結ぶ」として集大成したシリーズの復活です。

字数は一、五〇〇字、活動の現場写真や資料等を添え、送付先もあてお送りください。



質の高い学習の場を

渡辺千枝子
新米連華員の形にとって新築田市の公民館大会は、活動内容を知らずとも大変よい勉強になりました。

優良公民館も功労者の表彰、パネル討議を通じ、多くの方が公民館活動に力を入れていることに感動を覚えました。

「生涯教育」即ちした公民館のあり方と今後の課題」と題した田



代先生の基調講演は、公民館活動のむすかしさを改めて考えさせられました。

地域住民が望む学習の多様化に対し、社会教育行政としてどうマッチしていくか、また逆に、関心の薄い住民の学習意欲をどう喚起していくかといった問題など。

生涯教育時代の公民館

質の高い公教育機関となれ

自らの非力を痛感



村上 正二
「全公連第五次専門委員」の委員長として、今次会甲の中心であられた田代元祐先生の講演を、関心におおききする機会を得、こうした元気な方々が公民館のため

にご活躍されていることに安心を覚え、また前記の様な活動(その根拠は、到達すべき目標の高さにまたしても自らの非力を痛感させられた大会であった。一年の間を随って勤務することになった公民館は、今春近代的な施設に生まれかわり、以前に増した利用者の対応と施設管理に追われ三月、心をとりもたせると、登壇にあつた公民館は、「他の公私立にわたる機関や団体等の教育、文化事業にかきまわされ」「公民館事業の特性を確立し、実施すること」に迫られている」という気がし

新人にカツ



小柳 陽一
最近日であっただけに、地元のご婦人が準備された妻が心に秘めた、県内外から訪れた人たちが温かく迎えるようとする気配りがそこにあつた。教育委員会へ出向を命じられたのは四月。間口の

広い社会教育行政のあれこれ全体得するのにはさうさうとときた四方戸間であるが、公民館は肌で感じ、目で確かめる。助にしたいため新築田市を訪れた。社

会教育行政の今日的課題であるだけにものがほとんど。四月に任

者は毎には各市でも館長名がスラリと並んでいる。わが市は中央館は確かにあるが、独立の施設ではない。地区館はゼロ。分館は看板

会はカツを与えたい。また、焦燥感のひとつしり横切ったものであ

現場の実践記録募集

「公民館・現場からの実践記録」と題した連載特集を組むことになりました。この実践記録は、かつて、実践記録集「集いの学び結ぶ」として集大成したシリーズの復活です。

字数は一、五〇〇字、活動の現場写真や資料等を添え、送付先もあてお送りください。



※ ※

(加茂市社会教育課長)

第36回 県公民館

民間教育機関との

連 係 必 要

小林 仁



数年ぶりに公民館大会に参加した。基調講演、パネル討論には現在、公民館が抱えるいくつかの問題が取り上げられ、現場にいる私にとって極めて興味のある大会であった。

田代教授による第五次専門委員会答申を基にした動として位置づけられているのか、真つ問題点、対応しなければならぬ

講演は、現行年々高度化する住民の学習要求とは異様に行政改革が叫ばれたり、コミュニティーセンター・カルチャーセンター等の連係から、公民館はさまざまな問題が発生しているという指摘であった。これをどう調整し、教育活動に反映させていくのか、真つ問題点、対応しなければならぬ

公民館の理念を 確 認

渡辺 鉄男



今回の第三十六回新潟県公民館大会において、多くのことを学びましたが、特に、次の二点について所感の一端を申し述べてみたいと思ひます。

第一は、基調講演であります。講師の田代元弥先生のわかりやすい「生涯教育時代」即ち「公民館

行政の理解と 努力 必要

原 文武

私が、今次大会に参加した印象を一口に言うならば、非常に有意義な大会でした。特に田代先生の講演は、第五次専門委員会の答申も浮き彫りにし、現在の公民館がもつ問題点、対応しなければならぬ

やる気こそ大切

高橋 勇孝

今次大会において優良公民館としてわが青海町引公民館が表彰を受けた。誠に光栄であり心から感謝し厚くお礼申しあげたいと心に優良公民館の名に恥ぢないよう頑張つてゆきたいと思ふ。

生涯教育を進めようとして、民間教育機関との連携は不可欠である。たのほ、パネラーが公民館の利用者を含めた関係者ばかりから、今回はパネラーにコミュニティーセンター・カルチャーセンターの関係者が含まれていることであった。

欲を言ひ、討議の時間をもう少しほしかった。

(岩室村政主事)



いことから、あるいは方向付なものが、鮮明に理解することができましました。大きな収穫であると思



演を聞いた。多岐にわたる点もあつたが、これからの公民館の活動は人任せではなく館長はじめ役員は地区住民と互に目標を設定し合理的に役割を分担し各地域の特色を生かした事業の編成が必要で、地区住民と互に協力しお互に助け合つて各公民館と連絡を密にして行かなければならぬと思

館のあり方が 浮き彫りに

田辺ゆき子

昨年の「住民とともに歩む公民館活動」に引続き本年の「生涯教育時代」に即した公民館の在り方の研究テーマは基調講演の場望んでいたところである。特に本年の記念講演第五次答申を纏められた田代教授目からの認識は私にとっても貴重な指針の機会でありました。

昨年七月柏崎黒地地区公民館長に就任し地味丸抱えの課題に取り組まねばならぬ破目と心細さの日々の矢先の勉強の機会でしたので真剣に拝聴しました。

高次な学習 め ざ せ

高橋 啓作

このたびの三十六回公民館大会参加には、私にとっていろいろある。

公民館活動の在り方を浮き彫りにするために立派なパネラーの意見をパネル形式で日糧に組み入れる等立派な計画でした。

柏崎市ではその後早速館長会議も合め今次大会をテーマに研修会を持つ検討をし、各館の特性をふまえて具体的な課題の意見交換を致してみました。

来年第37回大会は当市を会場に実施される見通しと承りました。十年前柏崎後援で実施されました当市を想起しながら次年度に成果をかけたこの一年間頑張つてみたいと誓帯を締め直さべく約束をいたします。

(柏崎市黒地公民館長)

意味が込められていた。四津市公民館の全国表彰を機に退任させていたこと。今公民館大会で私自身が表彰状をいただいたこと、身に余る栄誉と感謝に堪えない。

大会に参加し、資料を見ていただき「大会のあしあと」を見て大変懐しかった。

私の参加したのは、十六回からであるが、県公民館連合会が、絶えず公民館活動の「指針」を掲げ指導の立場を堅持してきたこと、頭の下る思いである。

私は二十七回頃から講師の司会に苦勞した記憶がある。

コミュニティーづくりから生涯教育時代へ、生涯教育に關しては高井琢平さんのお説に賛成で、激動する社会の変化に伴う新しい知識や技術の修得に關するもので高次な学習が必要なのである。

もしこれを推進するとするならば、国や県にもっと力を入れてもらわなければならない。現スタッフと手前では無理である。

教育とは金のかかるものなのである。村おこし、町づくりに限らず、社会教育の面から手公民館になってもらいたいものである。

(前四津市公民館長)

第36回県公民館大会参加の記

行なうこと

大切に

神保よう子



公民館がこんなにも広くそして、活発な運営に全力をつくして

「生涯学習時代を迎え、公民館の果たす役割は益々」近年こんな言葉が多く交わされている。第三十六回県公民館大会に参加して、この言葉が、公民館の果たす役割の大きさを、誰れでもが利用でき、誰れでもが学ぶ喜びを感じる場として、学習体系を確立することが、一番大切であると申されま

田代先生の講演では、公民館の理想、生涯教育体制、法的にも美質的にも、公教育の機関であり、そして教育とは、あくまで人間性を尊重し、人間のなれあひによって結実する。公民館は地域社会に生活する住民を教育実践を通じて人間としての成長に向かうように導くこと等、多くのことを学びました。また、パネラーの方々の熱心な発言には自信と自負を感じられ、前田先生は「波及効果 生み出すプログラム」を作成するにはよりよい自分の生活の仕方学ぶための場、誰れでもが利用できる

石井先生に
モノ申す
星野 元一
(蕨市公民館運営委)

何年ぶりが大会に参加して、気がなつたことが二つある。一つは、折角の基礎講座が「窓中」の経過報告の内容で終ってしまったことである。毎年の公民館は二、三年で交替させられてしまう職員が多い。わたしも、出もどき一年生である。お恥ずかしい話だが、窓中を拝見したのは初めてで、経過報告は心ひびひかかった。一年生がほしいのは、窓中の意味、「専門職制」や「公運審」などの直接関係の具体的な問題である。「生涯学習時代」に即した公民館は、もう一度をこから始めないと、カケ声だけになってしまうのではないかと。もう一つは、石井先生の「専門

参加して良かった
一年生委員
成田 幸子
(十日町市公民館副館長)

私は、今年一月から婦人学級生の代表として村の公運審委員に委嘱された二年生委員です。壬午の全公運審委長の田代先生の講演は、一年生委員の私にはちょっと難しい所もありました。しかし、いままでたまたまなく公運審委員をひき受けていた私にとって、これからの生涯学習時代における公民館活動をする上で、婦人学級生として、また公運審委員として、公民館との



よきに保つてゆけば良いのか少しわかったような気がしました。午後からのパネル討議では、パネラーがそれぞれの立場から、住民とともに学ぶ公民館活動は、どうあるべきか真剣に討議されいるん方々が公民館に対して、大きな期待を持たれているのを強く感じました。一年生委員で何もわからなかった私は、参加するしかないか随分悩まされたが、参加してきて随分良い勉強になり、本当に良かったと思います。(毎神村公民館運営委)

住民とともに歩む

公民館とは.....

山田 昇栄



「生涯学習時代を迎え、公民館の果たす役割は益々」近年こんな言葉が多く交わされている。第三十六回県公民館大会に参加して、この言葉が、公民館の果たす役割の大きさを、誰れでもが利用でき、誰れでもが学ぶ喜びを感じる場として、学習体系を確立することが、一番大切であると申されま

のだが、魅力ある公民館、住民とともに歩む公民館活動でありたい、と日夜研鑽、努力している多くの職員がいるのだが、「生涯学習時代における公民館は総合行政の中に組み込まれて、村おとし、町づくりの推進力となれ」と結ばれた石井市長さんの一言一句は、正に公民館関係者の学びなき指針であろう。地域住民とともに堅実な歩みをつづけながら、生涯教育の場としての条件整備に努め、地域における社会教育活動の中心的機能果たさねばならぬ。(山根市中央公民館副館長)

実状に即して考える

古田島一也

まず、大会の運営「開会式冒頭の威勢のよみ太鼓の響きはよかった。ぐっと、心を引きしめての開幕となる。「公民館の歌」は初めて聞いた。よい歌であると思うが、これは、各館、行事等の機会に、せめてテイクアップして流したらもっと親しめるもの、と思つた。さて、中味「基礎講座、講師田代先生は、これからの公民館のあり方について、一次、五次答申の経過と論議の経過を

た。とくに、答申最後の注にあって、公民館への「十の指標、五つの提言」は、今後、各館の実情を考慮して、具体的な研究の必要を示されている。パネル討議も、それぞれの立場からの意見が発表されて、私自身たいへん参考になった。なかでもカルチャーセンター、コミュニティセンターの話から、公民館としての本質的なあり方を、地域の実情に即して考える必要を感じた。運営委員として、いろいろ勉強させられたよい大会であった。(山北町公民館運営委)

募る(色紙)の絵の表紙

公民館の絵画教室での傑作・利用グループのなかで絵をよくする人の作品など、なるべくタテ位置(タテ長)で書かれたもの。絵の内容は各地域の「名勝・旧跡・文化財」などのほか、季節感を表現する風物なを期待します。これから応募してください。秋、冬、春などの季節に合わせた絵柄を望みます。絵の説明文は四百字程度。絵の作者と別の人の書いたものでも結構です。採用のものには賞券券など薄紙をお贈りいたします。(本紙編集部)

あとがき

本号は、第36回県公民館大会特号となりました。原稿が豊富でまとめるのに苦労しました。しかもまだパネル討議の内容は種々残しとなり、次号以降に掲載することになりました。さて八月二十日、新潟県公民館館長山田市長長官視察会を開催し、当面の事業、予算などを審議し、こまごまの処理事項も終らないうちに、こまごまは九月二十五日に予定される評議員会の準備、それと本紙の編集と仕事を押し寄せています。その間に九月五日、六日開催される第26回関東甲信越公民館大会へも出席せねばならず、当日もつげぬ日が続きま